

佳作

## がんばれ、わたし

福岡県 小郡市立三国小学校二年 江藤 さくら

わたしは算数が好きです。まちがえても正しい答えにたどりつけたら、まるで自分がなんでもやりとげる、自しんにあふれたわたしになれる気がするからです。

ある日、お母さんが、さんすうの몬드いしゅうを買ってきました。さいしょはかんたんだったけど、と中から数が大きくなって、むずかしくなってきました。何回やりなおしても、こたえは合わず、正かいしたところも、なぜ正かいなのか分からなくなっていました。お母さんもないし、わたしはまるで、つめたくて、くらい海のそこにいるみたいでした。

そこへ、おにいちゃんが、二かいから下りてきました。いつもなら、わたしに話しかけてこないのに、目が合ったとたん、

「どうしたの。」

と、聞いてきました。わたしは、とっさに、

「なんでもないよ。」

と、言ってしまった。でも、分からない自分じやいられないし、でも、分からないところを、見られたくてモゾモゾしていると、

「分からないでしょ。見せて。」

と、言いました。おにいちゃんは、高校三年生で、わたしよりも、ずっと大きいです。ふだんは、あんまり話しかけてこないおにいちゃんですが、ゆっくり分かりやすく教えてくれました。同じおにいちゃんと思えないくらいに。わたしは、どんどん自しんをとりもどしてもんだいにちようせんしました。そして、ついに、目ひょうのページ数ができました。

わたしは、学校で先生や友だちに、分からないところや知らないことは、かくさず、正直に、言おうと思います。おにいちゃんに、教えてもらったことは、大人になっても、わすれないと思います。今どは、わたしがこまっている友だちがいたら、ゆっくり、やさしく教えてあげたいです。

夜になって、お母さんがかえってきました。わたしは、お母さんに、おにいちゃんからべんきょうを

教えてもらったこと、それがとても分かりやすかったことを話しました。お母さんは、ぜったいおどろくと思っていたのに、ちがいました。

「なるほどね。」

わたしは、お母さんから、おにいちゃんが学校の先生になるゆめをもっていることを、はじめて聞きました。びっくりしたけど、おにいちゃんが先生だったら、なんだかちよっぴりはずかしいような、でもとってもすてきだなと、思いました。

ゆめや目ひょうができると、おにいちゃんみたいに、今まで見たことのないすがたを、見せられるかもしれません。わたしも、しょうらいのゆめや目ひょうができれば、きっとあたらしい自分になれると思うと、ワクワクしています。